

摘果，収穫労力から見たウンシュウミカンの特性						
<p>[要約] <u>ウンシュウミカン</u>は，スイートスプリングやイヨカンに比べ，摘果と収穫に要する時間が長い。特に，<u>摘果時間</u>の割合が大きく，粗摘果だけでも<u>収穫時間</u>より長い年もある。</p>						
長崎県果樹試験場・常緑果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	指導
平成6～9年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

ウンシュウミカン（岩崎早生，原口早生，橋川温州，久能温州），スイートスプリング，吉田ボンカン，宮内イヨカンの結実管理労力（摘果，収穫作業）からみた特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- ①摘果と収穫に要する時間は，スイートスプリングが最も短く，次いでイヨカンが短い（表1）。
- ②ウンシュウミカンは，収穫時間に対する摘果時間の割合が高く，摘果に多くの時間を要した年には1回目の摘果（粗摘果）だけでも収穫時間より長い（表2）。
- ③樹冠占有面積当たりの摘果と収穫に要する時間は，温州ミカンがイヨカン，スイートスプリングより長い。

[成果の活用面・留意点]

自家労力を考慮し，作業適期を失しないよう，品種の組み合わせに配慮する必要がある。

[具体的データ]

表1 主要品種・系統の収量及び摘果，収穫労力

(1994～1997年)

品種・ 系統名	樹 齢 (中間台樹齢) (年生)	植栽本数 [*] (本/10a)	樹容積 (m ³)	収 量 [†] (kg/10a)	摘 果 [‡] 時 間 (hr/10a)	収 穫 [§] 時 間 (hr/10a)	摘果+収穫 [¶] 時 間 (hr/10a)
岩崎早生	42	27	74.4	4540	108	46	154
〃	29	36	33.5	2360	60	35	95
原口早生	23	67	14.6	2460	41	30	71
橋川温州	42	27	57.9	4120	59	36	95
久能温州	42	27	86.5	4740	63	70	133
宮内イカン	42	44	26.7	3290	33	24	57
同 若木	10	250	4.2	3150	26	19	45
スイートスプリング [*]	19	45	24.6	3190	19	26	44
吉田ホソカン	17	90	13.9	3660	35	47	82

^{*} 栽植距離をもとに10aあたりに換算 [†] 1樹当たりの収穫時間×10aあたり植栽本数
[‡] 1994年～1997年の平均収量 [§] 10a当たりの摘果時間と収穫時間
[¶] 1樹当たりの摘果時間×10aあたり植栽本数

表2 主要品種・系統の時期別摘果労力及び収穫労力

(1994～1997年)

品種・ 系統名	1994～1997年の平均				収 穫 時 間	1994～1997年の摘果時間最長年 [*]				
	摘 果 時 間			計		摘 果 時 間			計	
	1回目	2回目	3回目 [†]			1回目	2回目	3回目		
	(hr/10a)				(hr/10a)					
岩崎早生	43	45	20	108	46	74	30	67	171	48
〃	24	28	7	60	35	48	38	21	107	41
原口早生	17	18	6	41	30	38	18	28	83	34
橋川温州	23	27	8	59	36	57	28	0	85	42
久能温州	21	32	10	63	70	28	33	31	92	62
宮内イカン	16	12	5	33	24	17	25	0	42	28
同 若木	13	8	6	26	19	20	14	9	43	19
スイートスプリング [*]	8	9	2	19	26	15	10	4	30	29
吉田ホソカン	23	6	6	35	47	28	11	14	54	48

^{*} 摘果時間が最も長かった年の摘果，収穫時間 [†] 3回目以降の摘果時間の計

[その他]

研究課題名：傾斜地カンキツ園における軽労働・省力機械化生産体系の構築

予算区分：地域基幹（国庫）

研究期間：平成9年度（平成6年～10年）

研究担当者：濱口壽幸

発表論文等：平成6～9年度 長崎県果樹試験場業務報告